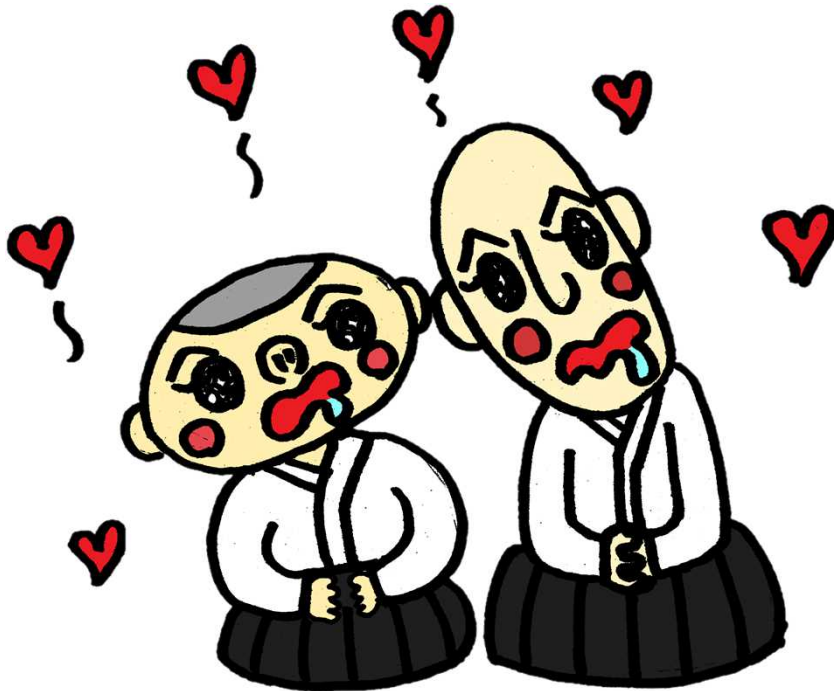


つがるの昔っこ28 (昔話)

# 和尚様と小坊こ③ (津軽弁)



国土交通省 東北地方整備局  
岩木川ダム統合管理事務所  
イラスト：うじいえひろみ  
カラーリング：みやかわみなみ



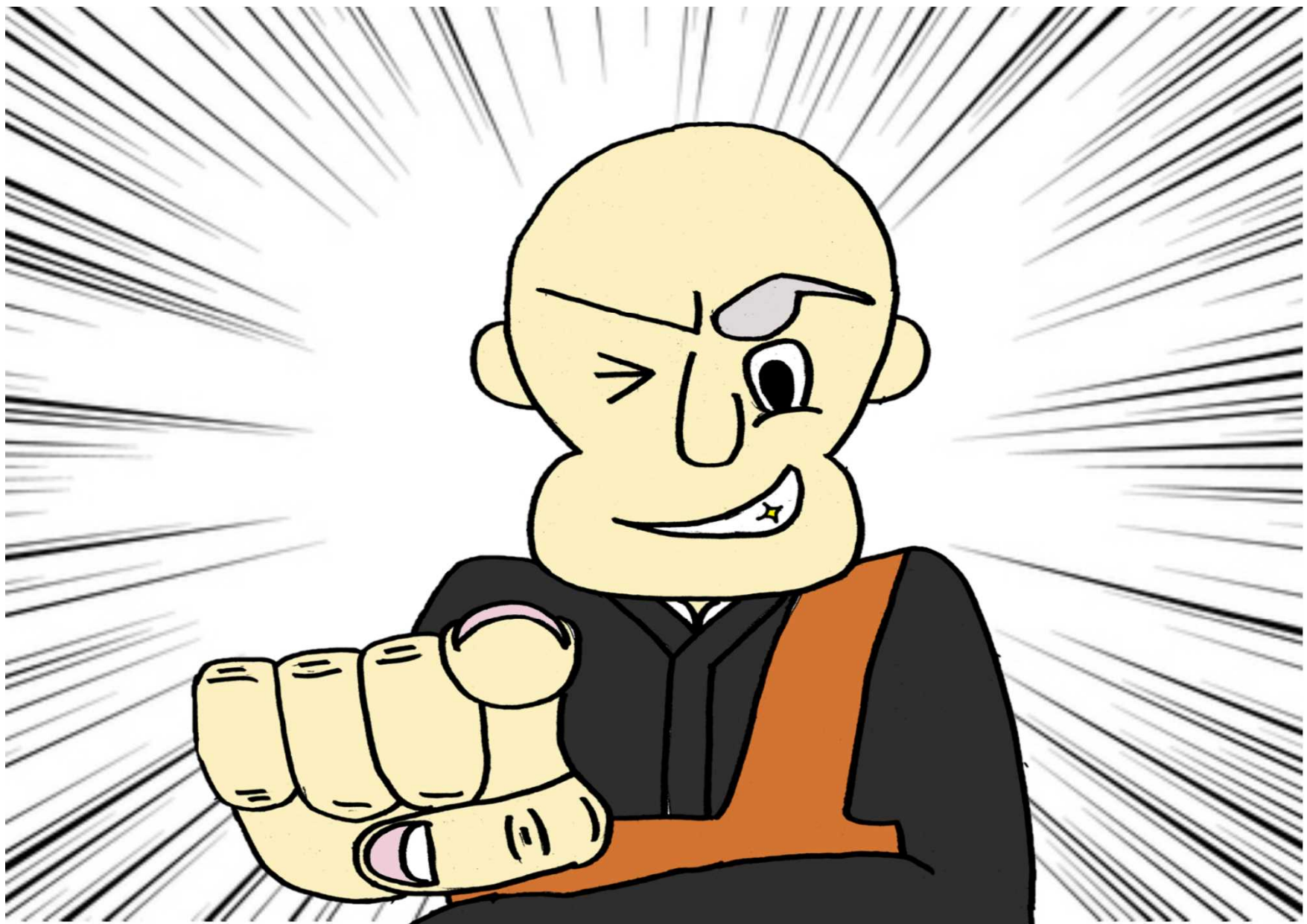
昔、ある寺さ、スッカドほいどだ和尚様居でたど。  
ほいどでほいどで、貰うんだば芋の皮でも欲しい、出すんだば屁コでも嫌だずほどケチンボだ  
和尚様であったど。したもんだどごで村々の人から、「ホイド寺」て呼ばえであたど。したけ  
んどもせ、この和尚様せ、ながなが学のある和尚様でせ、歌バ詠むのァ大好きであったど。  
歌って云（す）のァ、五・七・五の和歌のことし。



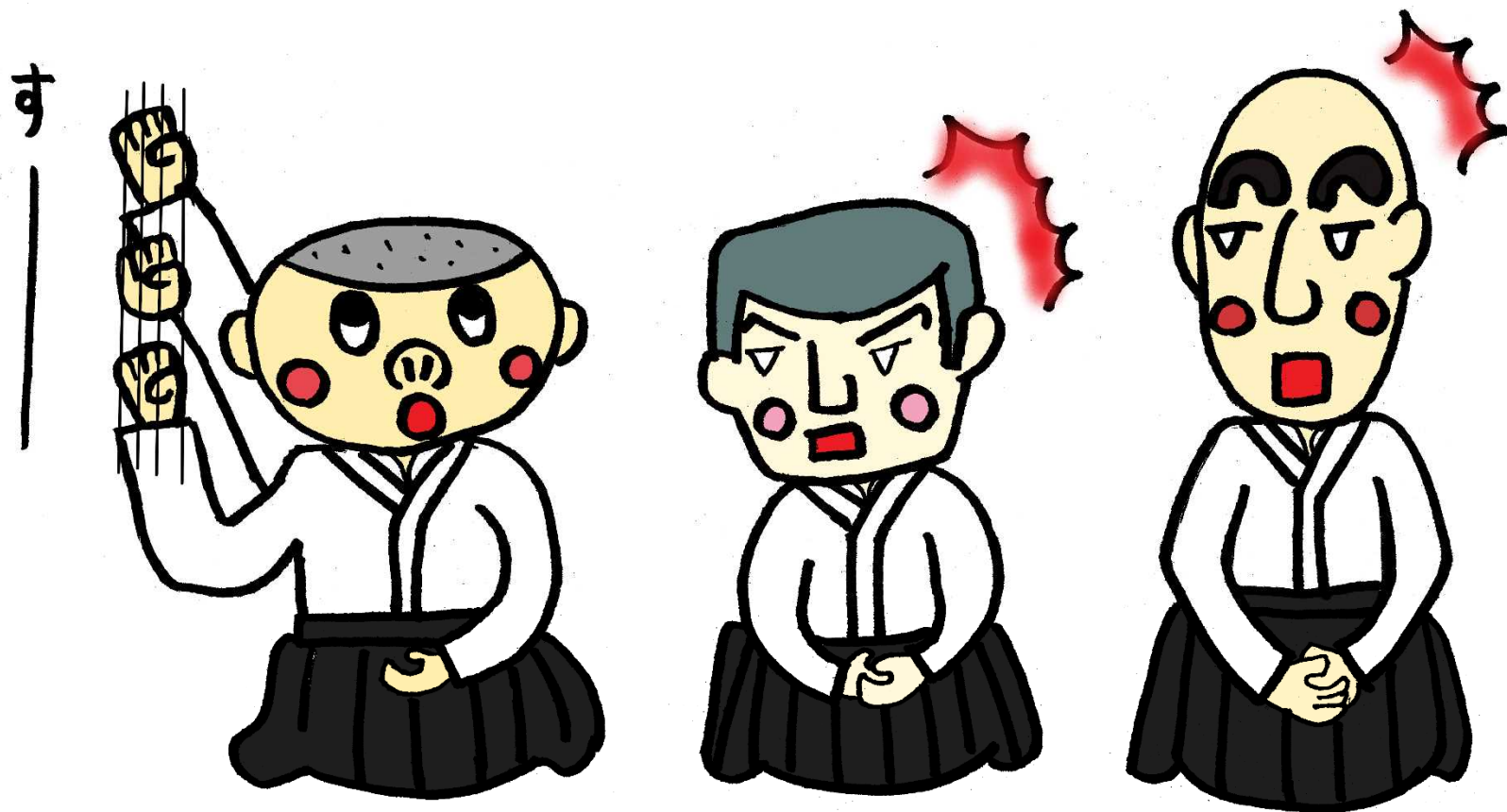
ある日、このお寺さ、檀家からボダ餅とどいだど。  
和尚様、自分だけ一人で食って、残ったのは隠してまって、小坊コ達（だち）さ是一片（ひと  
きれ）も食（か）へね。



小坊コ達ァ食（く）てくて、食（く）てくて、三人で相談して和尚様のどごさ行ったど。  
『和尚様、和尚様、さきた檀家様がら、ボダ餅コ届けしたべ。  
なんとか、我等（おらだち）さも食（か）へで下さい』て云（し）た。



和尚ア、一人でコチャラッと食（く）ってらの知られで、フウ悪くてあったばて、とっさに『よしよし、実は後で、お前達（おめだち）さも食（か）へてど思っただばて、ただだば食（か）へられね。これがお前達（おめだち）、和歌（うた）ば詠んでみろ、出来だものから食（く）わせでやる』て云（し）たぞおん。



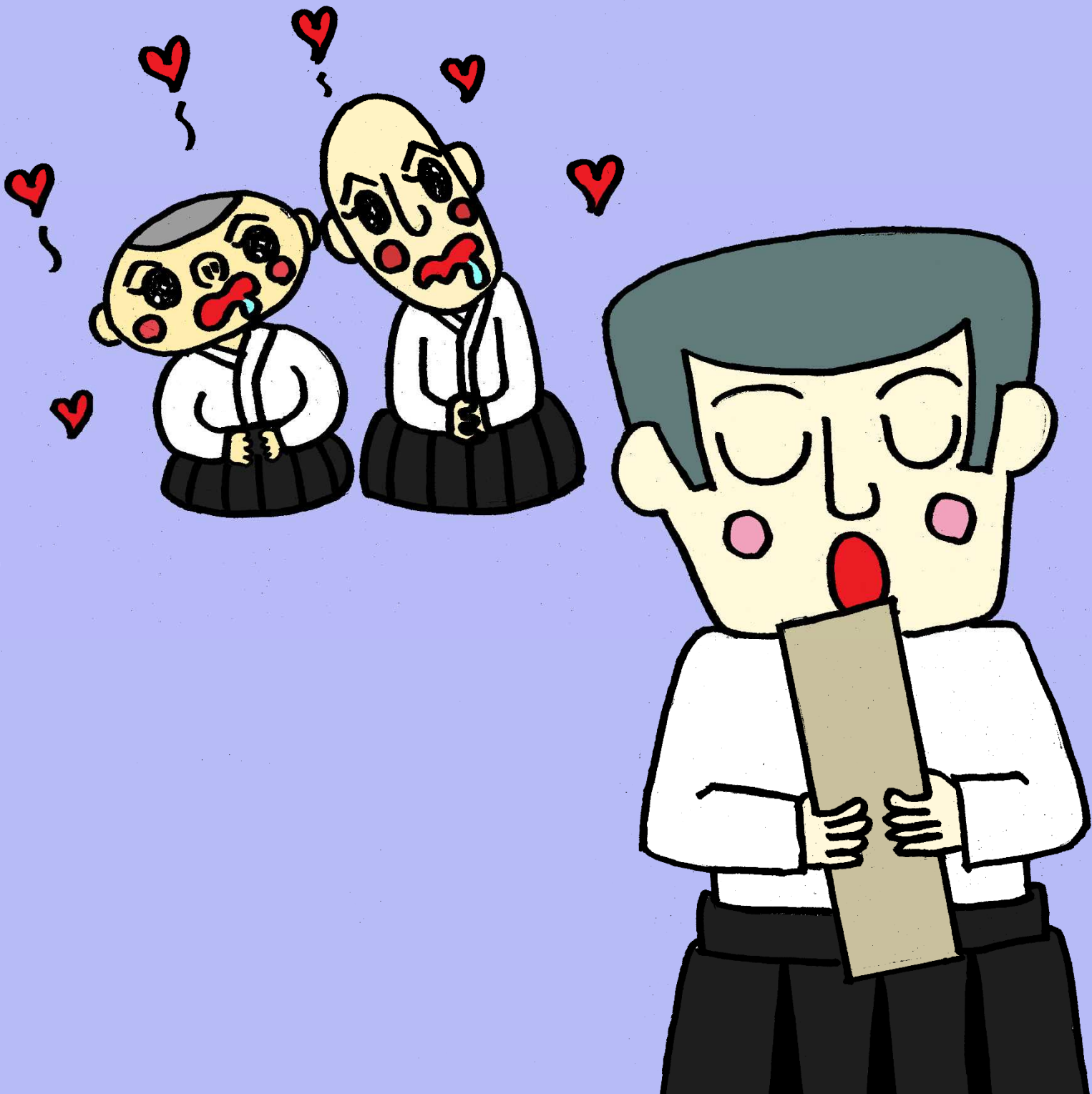
三人の小坊コ、とっこと考えでらばて、やがて、そのうちの一人が『私（わ）、できした』てしたど。  
『お、んだが、へば、お前（め）がら詠んでみろ』



最初の小坊コ、和歌（うだ）ば詠んだど  
『名月や

総代様が来てけだじや

大（で）っただ重箱のボダ餅下（さ）げで』



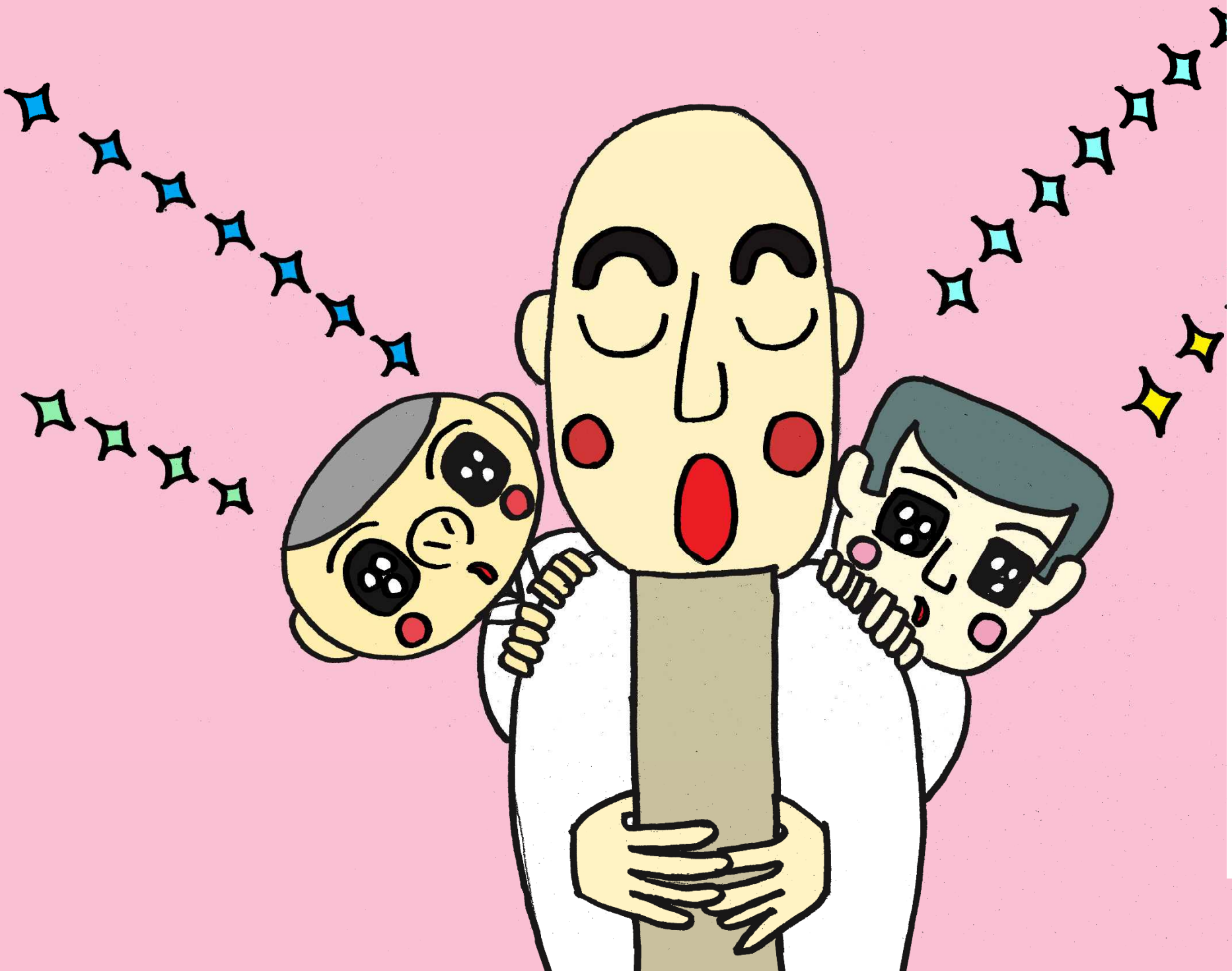
こんだア、二番目の小坊コも詠んだど。  
『名月や

総代様が帰ってまても  
待てど暮らせどこねえボダ餅』



さあ、したきや、三番目の小坊コも詠んだずおん。  
『名月や

沢山（うって）もらった餅（もち）だもの  
我（わ）さも食（か）へでも 罰（ばち）あたらねべ』





和尚様ギャフンどなてまで、みんなさボダ餅分げで食（か）へだど。  
それがらずものあ、小坊コ達、何があれば和歌（うだ）コ詠むようになってよ、和尚様もだん  
だん、ホイドだ気持ちコなおって来て、小坊コ達（だち）さ和歌（うだ）コ仕込んで一緒に詠  
み合ったど。



fin

檀家の人達ァ来れば、小坊コ達も和歌（うた）詠んで見（め）へるとごで、村の人も町の人も、みんな感心してせ、いつの間にかこのホイド寺、「名月寺」て云（す）、風流だ名前コで呼ばれるようになったんだど。  
和歌（うた）ってすものあいもんだなあ。  
お前達（おめだち）も一句詠んでみへんが？